

今年度の6年生が取り組んでくれた阿下喜楽のまとめをホームページにアップした。是非見ていただきたい。手作り感満載で、探求のプロセスが分かるとても素朴なまとめだ。ほとんど子どもの方でまとめ上げた。担任の手は入っていない▼出来栄は評価ではない。テーマを持って地域に向き合い、探求し、明らかになった事実こそが、子どもたちにとって財産なのだ。今回の探求では、阿下喜の方ではないが、Tさんという方に大変お世話になった。阿下喜の商店名が入った、マッチやうちわを大切に保存されていて、その一部を資料としてカメラに納めさせていただいた▼いただいた資料すべてが今回の探求に使えたわけではないが、資料とはそういうものである。「検索」することもよいが、子どもたちには「生の資料」に向き合わせたいと思う。自分で見聞きし、自分の言葉で尋ねてきてほしい。そして、そのプロセスをまとめたのだ▼この先子どもたちが阿下喜楽を繋いでくれたらうれしい。しかし、レベルアップする必要はない。肩肘張る必要もない。いわゆる「焼き直し」もいい▼今年度「八幡祭り」を探求した子が、卒業制作の素材に、昨年度譲っていた八幡祭りを選んでくれた。これは阿下喜の子しか選べない▼ある人に、「挨拶身言規挑に毎回題名を付けてはどうか」と教えていただいた。わたしは、ちょっとレベルアップした。